

トップランナーの「ビジネス×ランニング」

聞き手／黒崎 悠 文／吉田誠一 写真／小野口健太

「このTシャツを着てサブスリーを狙います」
いわきサンシャインマラソン参加賞Tシャツを制作



株式会社ハニーズホールディングス
取締役常務執行役員管理本部長
兼 人事部長
株式会社ハニーズハートフルサポート
代表取締役社長

佐藤成展 (49歳)

1999年 株式会社伊勢丹 入社
2005年 株式会社ハニーズ
(現ハニーズホールディングス) 入社
2011年 執行役員人事部長
2013年 株式会社ハニーズハートフルサポート
代表取締役社長(現任)
2016年 取締役執行役員管理本部本部長
兼 人事部長
2019年 取締役常務執行役員管理本部長
兼 人事部長(現任)

企業の経営者や組織のトップに立つ人にランニング実践者は多い。そんな「トップランナー」にとって、走ることはビジネスにどんな影響を与えているのか？ 当社社長・黒崎悠がインタビューする連載の第21回。今回は株式会社ハニーズホールディングス 取締役常務執行役員管理本部長の佐藤成展さんです。福島県いわき市に本社を置き、全国47都道府県に婦人服専門店「Honeys」を展開する同社は、いわきサンシャインマラソンに協賛し参加賞Tシャツを制作。2月21日の取材時、今年の参加賞Tシャツを持参し「これを着てサブスリーを狙います」と語った佐藤さんは、2月23日のいわきサンシャインで見事2時間55分51秒をマークしました。

文／吉田誠一

今エントリーできる注目レース

フィニッシュ後に南魚沼産コシヒカリを食べ放題！

「南魚沼グルメマラソン」

2025年6月8日(日) 新潟県南魚沼市

毎月注目の今エントリーできる大会をピックアップする連載。
今回は、スタートの号砲とともに「いただきます」と言ってスタートする
「南魚沼グルメマラソン」です。



福田六花さんの号砲でランナーがスタートする



フィニッシュ後にお茶碗におコメを
よそってもらえるランナー

「走って食べて、南魚沼を楽しもう！」と呼び掛けている大会だけに、参加者はスタートの号砲とともに「いただきます！」と言って走り出す。
ハーフマラソンと8分の1(5.274km)マラソンのコースには田植えを終えたばかりの田園風景が広がる。3町歩(約9000坪)もある日本一大きな田んぼが見どころだ。まだ雪を頂く越後三山の八海山、越後駒ヶ岳、中ノ岳の雄大な姿も望める。
この大会を特徴づけているのがフィニッシュ後の「南魚沼産コシヒカリ食べ放題」だ。参加賞のオリジナルお茶碗を使って、南魚沼産コシヒカリを好きなだけ食べることができる。大会事務局の川島弘之さんによると「走った後が本番」と言っている参加者が多いらしい。

10年の第1回大会から大会プロデューサーの福田六花さん(医師、ミュージシャン、ランナー)が「食べ放題とアフターラナイベント」にこだわってきた。地元住民にとって、コシヒカリを食べるのは特別なことではない。「走り終わった後にご飯の食べ放題が好評だとは思わなかった。いつも食べているので、食べ放題の魅力がなにか」という疑問がわいたらしい。しかし、「よそ者」の発想が「よそ者」を引きつける。新潟県外からの参加者がほぼ5割を占める。
コメは参加者が6千人の時代は1トン、近年は850kgほど用意している。ご飯のおかずは会場内の「グルメ村」で買える(参加賞に300円の食事券がついている)。
地元グルメの和豚もちぶた、魚沼ホルモン、八色しいたけなどの焼き物、地酒やクラフトビールが販売されているので、芝生の上にビニールシートを敷いて宴会や花見のようにアフターランを楽しむグループもいる。

ステージでは福田六花さん&松任谷正隆さん、ゲストランナーの浅井えり子さんのトークショー行われる。その後に参加者で大会オリジナル曲などを歌い、HERVEST CAMPのライブが催される。
合わせて仮装コンテストも実施している。スタート前に撮影した仮装ランナーの写真を掲示板に貼り出し、来場者がお気に入りの仮装に「いいね」シールを貼って投票する。
のどかな田園風景とグルメと緩い雰囲気魅力で、リピート率(過去に参加経験あり)が50%前後と高い。
会場の八色の森公園は上越新幹線浦佐駅から徒歩10分で、シヤトルバスも運行している。東京から浦佐まで新幹線で1時間30分足らず。関越自動車道のインターチェンジからも近いので、首都圏から日帰りでの参加が可能だ。
しかし、南魚沼市には浦佐温泉、六日町温泉があり、3つの酒蔵が構える。宿泊すれば温泉と、八海山、高千代、鶴齢といった地酒や越後ワインをゆっくり味わえる。

私たちは
こんな
会社です

ハニーズグループは、婦人服・身装小物・雑貨などの販売ならびに企画開発を行っています。1978年の設立以来「高感度・高品質・リーズナブルプライス」を商品コンセプトとする婦人服専門店「ハニーズ」を日本全国に展開し、幅広い年齢層のお客様が求める旬のファッションをお求めやすい価格でタイムリーに提供しています。

「どうやったら一番速く42kmを走り切れるかを考える。それがマラソンの面白いところ」

「自己ベスト2時間45分台の走力をお持ちだと聞いています。ランニングとの出会いは」

「新潟県十日町市の出身で、中学時代からクロスカントリースキーと陸上競技をやっていました」

「はじめの頃は、昔陸上をやった。走り始めてどんな変化がありましたか」

「大学時代にスキー部の先輩たちと一緒に一度走っています。本格的に練習して走ったのは第1回(10年)のいわきサンシャインです。サブスリーを狙いましたが、3時間7分4秒で通過したのでいけるだろうと思っていたら、35kmあたりから大きく失速して。マラソンは甘くないな、と痛感しました」

「そこから本気でサブスリー」

あるめひかり、フタバスズキリユウ(いわき市で化石が発掘された日本初の首長竜)など、毎年いわき市の担当者さんとやり取りしながら柄を決め、生地からデザインしてカラフルな色やプリントにこだわっています。今年はいわきの美しい景色を象徴する海やマリントワー、街道のヤシの木をデザインに取り入れました。大会前日のウエルカムパーティーで私がその年のTシャツのコンセプトを披露するのが恒例になっています。今年もこのTシャツを着て当日出走します。1月の勝田マラソンが3時間15秒(クロス)だったの、サブスリーを狙って走りたいと思っています」(編集部注:取材日は大会2日前の2月21日)

「自己ベスト2時間45分台の走力をお持ちだと聞いています。ランニングとの出会いは」

「新潟県十日町市の出身で、中学時代からクロスカントリースキーと陸上競技をやっていました」

「大学時代にスキー部の先輩たちと一緒に一度走っています。本格的に練習して走ったのは第1回(10年)のいわきサンシャインです。サブスリーを狙いましたが、3時間7分4秒で通過したのでいけるだろうと思っていたら、35kmあたりから大きく失速して。マラソンは甘くないな、と痛感しました」

「そこから本気でサブスリー」

「商品の企画・デザインから製造まで自社管轄で行い、商社等を挟まず直営店で販売する独自のSPAシステムを築きました。製造をミヤンマーの自社工場を中心に行っているのも強み

の商品を販売しています。そのため、集客力の高い商業施設で他の買い物のついでに買ってもらいたい。たとえば『戦略を取っています。たとえばスーパのレジの向かいにショップを置いて食料品のついでに買ってもら

「国内の人事・採用がメインですが、経理・総務部門、広報・IRにも携わっています。中期経営計画のプロジェクトリーダーも務め、また、人事担当として本部の係長職以下

「いわきサンシャインマラソンに10年の第1回から協賛し、Tシャツを参加賞として制作・提供しています。フラや市の魚で



今年のいわきサンシャイン参加賞Tシャツは、いわきの美しい景色を象徴する海やマリントワー、街道のヤシの木をデザインに取り入れた

「国内の人事・採用がメインですが、経理・総務部門、広報・IRにも携わっています。中期経営計画のプロジェクトリーダーも務め、また、人事担当として本部の係長職以下

「いわきサンシャインマラソンに10年の第1回から協賛し、Tシャツを参加賞として制作・提供しています。フラや市の魚で

「ハニーズは1978年の創業から福島県いわき市に本社を置き、婦人服の小売店を全国で展開されています」

「ハニーズは高感度、高品質でありながらリーズナブルな価格

「国内の人事・採用がメインですが、経理・総務部門、広報・IRにも携わっています。中期経営計画のプロジェクトリーダーも務め、また、人事担当として本部の係長職以下

「いわきサンシャインマラソンに10年の第1回から協賛し、Tシャツを参加賞として制作・提供しています。フラや市の魚で



2月23日のいわきサンシャインマラソン完走後、5km、10kmに参加した会社の女性メンバーらと

を目指したわけですか。

「同じ年の大田原も3時間を切れませんでした。11年のいわきではペース配分がうまくいき、2時間56分39秒でサブスリーを達成することができました」

——マラソンの面白さはどんなところでしょうか。

「調子がいいと思ってガンガンいってしまつと、どこかで息切れします。気象条件、どんなコースなのか、自分の体調はどうか、などをみながら、どういったら一番速く42kmを走り切れるかを考えなければなりません」

それまで積み上げたトレーニングはもちろん、レースが始まってからも微調整していく必要があります。それがマラソンの面白いところで、経営にも通ずるところがあると感じます。マラソンも経営も、いろんな面から俯瞰しながら、冷静に判断してプランを組み立てていく必要があるのではないのでしょうか」

——自己ベストを出したのは19年の東京マラソン（2時間45分27秒）ですね。

「序盤にたくさん抜かれたので、調子が悪いのかなと思いましたが、時計でタイムを確認したらそんなことはなくて、周りが最初の下りで飛ばしていたんですね。私は最後までイーブンペースで走れて、これまでで一番うまくマネジメントできたレースでした」

——普段はどのような練習をしているのでしょうか。

「平日は仕事から帰って午後9時前後に走り始めます。真つ暗なのでライトを点けてキロ6、7分。平日のランニングは気分転換の意味合いが強いです。週末はキロ6分くらいから最後は4分に上げて、15〜20km。常

に一人で走っている中で、中高生や同世代のランナーに刺激をもらうために、たまに陸上競技場に行つてキロ4分5〜10km走ることもあります。月間走行距離は250〜300kmほどです」

——平日の夜、暗い中を走りながらどんなことを考えているのですか。

「仕事のことが多いですね。あの時こうしたら良かったのでは、とか、会議の進行はこうしたほうが良いかな、とか。思いついたことは立ち止まってスマホに音声入力して、自動で文字化されたものを自分のメールアドレスに送るようにしています。端から見たら変な人と思われているかもしれませんが（笑）」

——それは面白い方法ですね。気がついたことをすぐ記録するわけですね。

「いいアイデアが思い浮かんでも、走り終わると忘れてしまつて、あれ、何だっけとなりますから」

——大会を走る楽しさはどういう点でしょうか。

「大会では声援の力、人に見ら

れていることの大きさを感じます。震災後、背中に『がんばろう 福島』と文字を入れたシャツを着て出場した大田原マラソンで、サブエガ（2時間50分切り）を狙っていたんですが30kmを過ぎてペースが落ち、諦めて歩き始めてリタイアしようかなと思っていたら、後続のランナーに『がんばろう 福島』と激励されました。自分がこのシャツを着ている意味を考えさせられ『リタイアするわけにはいかない』と。そこからまた力を振り絞つて走り、何とかサブスリーでゴールしたということがありました」

——マラソン大会は地域にとっても大きな存在だと思います。

「いわきは東北でもほとんど雪が降らないので、いわきサンシャインは真冬に東北で走れる貴重なマラソンです。大会があることで地域の人たちが一丸となるキッカケにもなります。このTシャツを着たランナーが全国各地のいろんな場所で走ること、より多くの人がいわきサンシャインのことを知り、『来年走りに行こう』と思つてもらえたらよいと思います」

仕事もランも毎日必ず変化がある

アシックス代表取締役会長CEOの廣田康人さんがランニングと会社経営を綴る連載。今回は「日々の変化や工夫を考えました」。

私は早朝走ることが多いのですが、春に向かって、日の出が刻々と早くなつていくことを感じます。例えば東京では、3月1日に6時12分だった日の出が、毎日1、2分早くなつていつ、10日には6時、20日には5時54分になります。

この変化は地球の地軸の傾きや公転、自転によるものというのは学校で習ったのですが、日の出が早くなることで、一日一日が変化していくように感じられ、「また新しい日が始まるなあ」と朝から気分を上げて一日をスタートできる気がします。



イラスト/hoco

春は、暗くて寒く起きるのがつらかった朝が、明るくて暖かく過ごしやすい朝になつていく時期で、特にその変化を感じやすいのでしょうか。

この日々の変化について、若い頃会社の先輩から、「毎日毎日同じ仕事の繰り返しでも、必ず変化はある。この変化に気がつくかどうか、この変化を大切にできるかどうかがお前の成長につながるんだ」と言われたことがあります。

会社の仕事って、やろうと思えば適当に流せることってありますよね。慣れば慣れるほど、次に何が起きるかもだいたいわかつてきて、「今日もいつもと同じでいいや」とささっと仕事をこなしてしまうこと、ありませんか。

もちろん、効率的に仕事を進めることは大切で、ちゃんとした成果さげられればささっとこなすこと自体は問題ではありません。ただ、いつも流してばかりいると、一体何のために仕事をしているんだろうと思つてしまうこともありますよね。慣れた仕事を効率的に行つたとしても、ちょっと何か工夫で

きないかなと思つたり、別の角度から見られないか考えてみると、意外と新しい発見があったりするもので、それが更に効率性や仕事の質の向上につながつたりします。こうした新しい発見が自分のモチベーションを上げ、自分自身の成長にも資すると思うのです。

毎朝のランニングでも、体調や気象条件によって脚の運びが違つたり、リズムが変わつたりするので、「今日は疲れているから、ゆっくり走ろう」とか「ちょっと脚が重いので歩幅を狭くしてピッチを上げてみるか」とか「身体が軽いから距離を延ばそう」などと自分との対話が弾みます。

また、同じルートを走っていても、街路樹に新芽が芽吹いたり、道端の草花が咲き始めたり、ダウンを脱いだ通勤人やTシャツ姿のランナーとすれ違ふことが増えたりして、「あ、今日は昨日とは違うな」とも感じます。

こうした日々の変化を楽しむ心を、歳を取つてもランニングでも仕事でも持ち続けていきたいなと思つています。

ひろた・やすひと

株式会社アシックス代表取締役会長CEO。早稲田大学卒業後、三菱商事の取締役などを経て、2018年1月にアシックス入社、同3月より同社代表取締役社長COO、2022年3月より同社代表取締役社長CEO兼COOを務め、昨年1月から現職。50歳から走り出し、自己ベストは17年大阪の3時間53分27秒。1956年生まれ

